

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	671300242
法人名	医療法人社団 須田医院
事業所名	須田医院グループホーム
訪問調査日	平成 20 年 1 月 18 日
評価確定日	平成 20 年 3 月 5 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月27日

【評価実施概要】

事業所番号	671300242		
法人名	医療法人社団 須田医院		
事業所名	須田医院グループホーム		
所在地 (電話番号)	山形県上山市美咲町一丁目2番18号 (電話) 023-673-7900		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成20年1月18日	評価確定日	平成20年3月5日

【情報提供票より】(平成19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年11月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	18 人	常勤	16 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 14.7625人

(2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	新築/改築
建物構造	鉄骨造り	
	3階建ての	1階 ~ 3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	27 名	男性	5 名	女性	22 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	8 名	要介護4	9 名		
要介護5	2 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 85.4 歳	最低	71 歳	最高	103 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	須田整形外科医院 ・ 石橋歯科クリニック
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

併設医療機関とホームが1階の廊下でつながっており、利用者の食欲低下、状態悪化、緊急対応の際の連携、終末期ケアの支援、災害対策の協力はもちろんのこと、リハビリ訓練が定期的に受けられるため、車椅子を自分で操作して移動できるようになった方、歩行器を使用して歩けるようになった方、リハビリ訓練が心の支えや気分転換になっています。利用者の日常生活動作の改善と認知症の進行防止のために、小人数の職員体制の中、管理者・計画作成担当者(介護支援専門員)・介護スタッフ等が全力で日々の業務に取り組んでいるホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 職員が昼食時に自分の弁当を食べながら利用者への支援や介助を行っていた点については、利用者と同じ食事を職員と一緒に食べながら、必要な支援や介助を行うよう改善されていた。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 夜勤時や昼休みに、職員に自己評価表に目を通してもらい、意見の書き込みをしてもらうようにしており、わかりにくい項目については説明し、評価を実施する意義を理解しながら、職員全員で評価を活かした改善に取り組もうと努力している。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進委員会を2ヶ月ごとに開催し、利用者の状況や外部評価結果に対する取り組み、ホームの行事、交換研修の報告を行っている。また、家族・地域の方との意見交換もなされ、家族から出された室内調節への意見等を反映させて、サービス提供に取り組んでいる状況もみられた。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 運営推進会議の開催や意見箱の設置を行って家族の意見・苦情・不満を受け付けており、エアコンだけでなく窓を開けて換気してほしいという要望を受け、外の自然な風を取り入れながら室内の温度調節を行う対応がなされている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 駅前で行われる花笠踊り・消防の出初式や学校行事に参加したり、民生委員から情報提供があった行事(地区のカラオケ・文化祭等)や市報を見て利用者が参加できる行事等に参加して交流を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着に向けた事業所独自の理念を作り上げ、その理念をより実践に反映できるように、各ユニットの理念をユニットごとに話し合いを持って作り上げている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員が意識して利用者に接することができるように、食堂にも掲示して、理念の実践に日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	駅前で行われる花笠踊り・消防の出初式や学校行事に参加したり、民生委員から情報提供があった行事(地区のカラオケ・文化祭等)や市報を見て利用者が参加できる行事等に参加して交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	夜勤時や昼休みに、職員に自己評価表に目を通してもらい、意見の書き込みをしてもらうようにしており、わかりにくい項目については説明し、評価を実施する意義を理解しながら、職員全員で評価を活かした改善に取り組もうと努力している。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会を2ヶ月ごとに開催し、利用者の状況や外部評価結果に対する取り組み、ホームの行事、交換研修の報告を行っている。また、家族・地域の方との意見交換もなされ、家族から出された室内調節への意見等を反映させて、サービス提供に取り組んでいる状況もみられた。		

山形県 須田医院グループホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議時、行事の案内を行いながら来訪の呼びかけをし、行政とともにサービス向上に取り組めるよう努力している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	健康状態及びレシートによる金銭支出状況は、個人ごとのノートに記録され、家族面会の際にそのノートを見せて口頭で報告されている。	○	家族への報告のスタイルと内容について点検し、家族が知りたい点も考慮しながら、利用者ごとに作成する便りの中で一人ひとりの暮らしぶりもあわせて報告していく等、個々に合わせた定期的な報告の工夫に取り組んでみることも期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の開催や意見箱の設置を行って家族の意見・苦情・不満を受け付けており、エアコンだけでなく窓を開けて換気してほしいという要望を受け、外の自然な風を取り入れながら室内の温度調節を行う対応がなされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動があった当初は、日勤体制を組んで利用者と接する時間をより多くし、馴染みの関係が早くつくれるようにしている。また、夜勤の際は新任者と現任者がペアを組み、利用者に影響や戸惑いが出ないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や交換研修等に参加し、月1回の会議開催時に報告を行っており、研修で学んだことを活かしてサービスの質の向上に努力している。また、職場内研修では心肺蘇生法等の緊急時の対応についても学んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの交換研修を各ユニット1名ずつ行っており、その体験を活かしたサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	凍み大根、梅干、漬物などを一緒に作りながら、味付け・皮のむき方・乾し方を教わり、学んだり支えあう関係を築けるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族と共に過ごしたいという利用者の希望を受け、家族とも相談の上で家族がホームに宿泊した例や利用者が自宅に外泊できるようにした例があり、また、「美容院に行きたい」などの希望があれば付き添って出かける対応も行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は本人の状況を把握し、本人・家族・必要な関係者と話し合いを行い、本人の希望を取り入れた計画を個別・具体的に作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回は介護計画の見直しが行われており、状態変化時には、本人・家族・随時必要な関係者と話し合いを行い、見直しを早める対応がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	ホームと廊下でつながる棟続きの併設医院がかかりつ け医となっており、いつでも適切な医療がすぐに受けら れるようになっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	併設医院からの往診や支援を受け、医療スタッフとも連 携を図りながら、終末期ケアに取り組んだ事例がこの1 年間で5例あったが、「重度化した場合における対応の 指針」や「看取りに関する指針」は作成されていない。	○	利用者の重度化が進んできている状況や終末期ケアにも 実際に取り組んできた状況を踏まえ、「重度化した場合 における対応の指針」や「看取りに関する指針」を整備し ておく取り組みも期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	留置カテーテルを使用している利用者の蓄尿袋が、居 室～食堂の移動の際や食事の際、他の利用者や来訪 者の目に触れる状態となっていた。	○	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーへの配慮の一つと して、留置カテーテル使用者の蓄尿袋が他の人の目に触 れないようにする取り組みが期待される。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に応じて居室で食事を食べたり、好きなテ レビ番組を時間を気にせず居室で自由に見たりするこ とができる。また、生け花の先生をしていた利用者に花 を生けてもらうなど、その人らしい暮らしの支援がなされ ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の介護度が以前よりも高くなってきているため、食事の準備や後片付けができる利用者は少ないが、玉ねぎの皮むき、きのこを裂くなど、食事づくりの中でできることをしてもらっている。また、行事の際のおやつとしてクリスマスケーキなども提供されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	併設医療機関のデイケア利用者も使用する大浴場を共用しているため、入浴日や時間が決められているが、利用者から希望があれば、各ユニットごとに設けられている浴室を利用することもできる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事に励んできた利用者と職員と一緒に草むしりや畑作業を行う、生け花の先生であった利用者にお花を生けてもらう、ウサギを飼育するなど、一人ひとりの生活歴や特技を活かした楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの商店に日用品や菓子等を買に行ったり、パーマ屋や床屋に出かけたりしており、その日の希望によって外出できるように支援している。また、職員の付き添いを受けながら、ユニットから併設医療機関のリハビリに通う利用者もおり、身体機能の維持や気分転換にもなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	日中は玄関に鍵をかけることなく安全に過ごせるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者と一緒に、定期的な避難訓練が年2回行われており、職員は利用者が安全に避難できる方法身につけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて、粥・きざみ・ミキサー食などの提供と「むせり」がある場合は「とろみ」をつけた提供が行われており、利用者の好みに配慮しつつも、必要な食事の量、栄養バランス、水分摂取量が確保できるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間には、季節の花々・鉢物・だんご木・掛け軸・茶箆筒などが置かれ、暮らしの中に生活感や季節感を取り入れている。また、利用者がごろんと横になったり、足を伸ばして座ることができるソファを置いて、ゆったりと過ごせるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内にはテレビ・冷蔵庫・箆筒・こたつ等が置かれており、箆筒の上には利用者の家族の写真を飾り、本人が居心地よく過ごせるようにしている。		